

第1回 安曇野市文化財保存活用地域計画策定協議会

1	協議会名	安曇野市文化財保存活用地域計画策定協議会
2	日 時	令和5年10月24日(火) 午後6時30分から7時30分まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 305共用会議室
4	出席者	曾根原秀明委員、幅谷啓子委員、笹本正治委員、梅干野成央委員、山根宏文委員、百瀬新治委員、場々洋介委員、加藏友美委員、佐藤亜紀子委員、馬場伸一郎委員代理
5	市側出席者	教育長 橋渡勝也、文化課長 三澤新弥、文化財保護係長 堀久士、文化財保護係 齊藤雄太、山下泰永 支援事業受託者(株式会社KRCあづみの事業所) 環境計画室長 藤村忠志、環境計画室 長尾山音、技術顧問 宗像章
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和5年11月13日

1 あいさつ 【教育長】

2 委員自己紹介 【各自自己紹介】

3 委員委嘱

4 会長、副会長の選出

会長に笹本委員、副会長に梅干野委員を選出。

5 文化財保存活用地域計画について

(1) 計画策定の背景と内容・策定の進め方(資料3・4) 【事務局より資料の説明】

委員：未指定文化財はそもそも何なのか。

事務局：資料6をご覧ください。こちらが安曇野市で指定または登録等文化財として把握している文化財すべてで10月12日現在157件あるが、これ以外のもので重要な文化財と認識いただければと思う。

委員：それは新たに発掘するとかではなく、あるものなのか。

事務局：我々が生活している中で、先人から大切に引き継いできたものといえばよいのか、地域の宝や生活の仕方、風習に基づいて残されてきたものである。

委員：それら全てが未指定文化財なのか。取捨選択をするのではなく、それらを全て吸い上げるのか。

事務局：理想を言うと全てであるが、どこかで取捨選択をする必要がでてくるかもしれない。

会長：今話があったように、大きな方向性としては指定されているものだけではない。また、現在全部把握されているわけでもない。現状で色々なやり方をしながら、そして調べるといのは誰の視点でやるかによって全く価値が変わってくる。市内所在の文化財をみると、旧町村によって決め方が随分違っていることがわかる。それを平均しながら、適宜皆さんにお願いしたいが、今まで気が付いていなくて、重要なものがあると思う。例えば、私が一番驚いたのは、戦時中、松根油を取った松の木がそのまま生きていること。これは近代の文化財としてもおかしくない。市民にとってはその方が重要かもしれない。そういうことを含めて皆で考えていく。もう一つ大事

なのは、最初の事務局の説明に違和感があり、観光が一番ではなく、市民が自分たちの場所をきちんと認識して文化を挙げていく作業が大前提で、その結果として観光は入ってくるはずだと思う。私たちにとって、市民にとって文化財とは一体何だろうということを考えながら、過去を振り返り、未来を作っていく素材としてやっていきたいと思っている。その意味で、皆さんには色々なことを言っていたきたい。

最初の段階からもう一度考えてほしいなと思っていることがある。例えば、資料の中にある「体制作りが求められています」という言葉に対し、ちょっと気になっている。求めているのは、国なのか？国から求められているから、それに対応するだけなのか？そうではないはずで、「私たち市民が求めています」という方がずっと筋が通る。今日お集まりの委員の皆さんはまさに市民の代表。次の世代に向けて安曇野市の文化財をどう認識し、どのように活用し、それによって次の時代をどう作っていくのか。ここにお集まりの皆さんのように、屋敷林など本当に大事なものを日々考えている人たちがいっぱいいることが私たちの強みである。そういったことを含めながら、安曇野市の文化財保存活用地域計画はとりあえず10年計画であるが、安曇野の未来に関わってくるとても大事な作業だと思う。幸いなことに、今日お集まりの皆さんは、文化財の所有者から始まり、色々な関係の、しかも私の尊敬する多くの人たちが集まっていたので、最終的には皆でもって意見を戦わせながら、より良いものにしていきたいと思う。現時点で皆様の方から、ここはどうなっているのか、あるいはわからないのだけれども、ということがあれば、ご質問、ご意見いただきたいと思う。できるだけ発言して、自分たちこそが安曇野の市の文化を担い、地域計画を作っているのだという気持ちになっていただければと思う。よろしく願いたい。

委員：私は民家を調べた経緯があり、当然屋敷林もセットと考え、価値あるものがたくさんあると思う。屋敷林と民家のセットで登録されるといいと思う。

会長：安曇野で一番大事な「文化的景観」が抜けている。一番大事にしているのは景観である。だから、私たちは必ずしも国の言うとおりにする必要はない。国よりも地域の皆さんが、積極的にふるさとの大事なところを認識して、この地域計画を通じて市民の皆さんに文化の大事さを訴えかけていきたいと思っている。そういった意味でも、皆さんの活動をそのまま意見を言っていたければよい。

委員：先日、松本市博物館を見学した。松本は城下町で、度々大火でたくさんの家屋が焼けた。それで大正2年に、水蒸気を動力に使った消火ポンプを装備した。おそらく全国的には非常に先進的であり、お金もかかったと思うが、すごいなと思った。では、安曇野でポンプ車はどうだったか。堀金の中堀でほぼ同時期に、新規に購入したものがあつた。自転車にポンプを付けた自転車運搬のポンプである。非常に機動性があり、結構たくさん火事現場に行ったという記録が残っている。城下町のポンプ車と比べるべきもないが、逆に、消防器具を専門に研究されている関西の大学の先生が、その自転車のポンプを見て、これはすごいと言われたことがあつた。何がすごいかというと、当時の経済的なこと、消火の機動性や、実際に行って何ができるかということもきちんと裏付けられている資料であり、しかも全国で唯一らしいということで、それを埃まみれにしてしまっているこの民俗資料館は一体何なのだと、私は怒られた覚えがある。だから、筐

本会長が言われているとおり、安曇野らしい文化財の把握、それをどう考えるかということ、どう活用するかということがないと、松本と比べたり、あるいは国の方針だけに乗っていくようなことは、全く必要ないと思う。

会 長：私は松本市博物館を作る方に携わったが、その者としての気持ちは、では梓川村は？波田町は？それから安曇村は？合併したところにとって一体どういう意味を持つのか非常に弱く、松本城と観光要素だけだという気がしている。私は、安曇野市が、それぞれの旧町村にはすごく特徴があり、その特徴をできるだけ満遍なく見つけ出した上で、例えば観光ルートができるのだろうか、どうすれば市民はこのまちを豊かにできるのだろうか、そういった方向にできるだけ持っていきたいと思っている。

一番大事なのは、今日お集まりの委員の皆さんが、それぞれ分野が違うので、自分たちの持っている分野を前面に出していただければだいぶ違ってくるだろう。それから、自分のところを見てもらう時に、今は市外に住んでいるが、よそから見た場合の良さもあると思う。本当にすごい文化財を所管しながら、実はまだまだ市民のバックアップが弱いところもある。そういったことも含め、所有者も、それから専門の人たちも、もっと意見を言っていたきたい。いつも思っているが、女性の視点、ものすごく大事である。文化財は今まで男性の目、どちらかという支配者に近いような目でしか見てなかった。それを変えていくためには、できたら女性の目で、ここは足りないのではないかときちんと言ってもらっていたい。いずれにしても大変な作業である。

1つだけ皆さんに大前提として提供しておきたい。令和7年度、夏の長野県立歴史館の企画展示は安曇野展をやる予定である。まさに私たちがこれから取り組む地域計画立案の最終年度に展示がされる。私はこれを応援だと思っている。安曇野にはこんな文化財があるのだなということが、県立歴史館で展示されたら、市民の皆さんも誇りに思ってくれると思う。そういった意味で、今までのように、最初のところに出てくるような、いわゆる皆が知っている文化財だけではなく、安曇野にとっての文化財とは何かという基本的なことから、皆で考え直しながら、本市にとって一番何が大事なのかというところを考えていきたい。私が安曇野市で最高だと思っているのは学校ミュージアムである。子どもたちのために体育館に美術品を持ち込んで、小グループで見てもらって、場合によると作品を触らせている。その感動に満ちた文化財は、必ずしも国が言っているようなものだけではない。一方、安曇野に来てちょっと寂しいなと思っていることの1つが、かつてはよく見られたバイクがどんどん減っているような気がしてならないことだ。皆さんにとって当たり前なのが、よそから見ると大変貴重なものだということがいっぱいある。そういった意味で、今後、みんなで意見を戦わせながら、お互いによりよくするための意見を言っていたいて、前に行けたらと思っている。

(2) 当面の作業（資料5・6）

【株式会社KRCから説明】

(3) 意見交換

会 長：事務局は、早め早めに資料を送っていただきたい。チェックして何が足りないかそれぞれの目を見た上で、少しでも前に行きたいと思っている。資料を見ても、私たち

の協議会がいかに大変な役割を担っているかお気づきだと思います。皆でもって、少しでもこの安曇野市の文化財をいい形で次の時代に残し、そして活用していただけるように、知恵を振り絞っていただけたらと思う。

副会長：非現実的な話かもしれないが、組織の要綱では「この協議会の庶務は文化課において処理する」と書かれている。事務局体制として、文化財部局だけでいいのかと率直に感じている。もちろん主体となるのは文化課だが、今回作成するのはあくまで地域計画であり、そうした時に、やはり都市計画や観光の関係の方等、この計画に関わりそうな行政部局に早い段階で事務局に入っておいてもらうのが大事だと思っているが、可能か。

事務局：庁内プロジェクトチーム（PT）というものを、この協議会を立ち上げる際に設立している。この庁内PTというのは何かというと、行政内での各部局調整が必要だろうということで、関係する部局に声をかけて立ち上げてある。行政上での専門的な分野について確認や聞けるように、堰の関係の耕地林務課や、観光交流促進課、建築景観、政策部、まちづくり推進課の部局の担当者を入れて庁内会議を立ち上げている。そちらは必要に応じて、会議を同時並行で進めていきたいと考えている。

会 長：これはすごく大事で、形だけではなくて、しっかり中で揉んでおいていただくと、私たちも非常に議論しやすくなる。その点では、副会長の方からご提案があったということで、改めてお願いします。

委 員：安曇野市文化財調査委員が今 10 名いて、その方たちに色々な新たな物とかを調査していただくということか。

事務局：実は各地域に 2 人ずつ委員さんがいらっしゃるが、旧町村時代から市史編纂に関わった方や、地域に長く住んでいる方、地域で活躍されている方を委嘱している。まずその方々を中心に文化財のピックアップをお願いしようと考えている。

委 員：今回このような新たなプロジェクトを立ち上げるにあたり、この委員の人数について、どうかと思う。全域広いので。予算のこともあるかと思うが体制等考慮していただきたい。

事務局：基本は先ほどの 10 名にアンケート、ピックアップしていただく調査票を依頼するが、それ以外にも、私は本日お集まりの方々にも書いていただくことが必要かと思っている。また、それぞれの地域の宝を書いている者たちにも少し協力してもらおうかとも考えている。それぞれ詳しい方に、ピックアップをお願いしようかと考えている。

会 長：本市の特徴は、「○○の宝」や「安曇野風土記」を作っていることである。あくまでも調査員はその中心をなす人たちで、調査員だけではなく、文化財保護審議会の指示に従い、足りないと思う領域について、補足していくみたいな形でやっていく。そして、文化財調査員を中心にしながら地域を見ていかないと、その人たちだけで終わるわけではないので、その点では、今後ともご協力いただけるようにする。それをしっかりやるためには、予算的なものも必要になるので、それは市で少し働いていただけたらと思う。対応を事務局にお願いしたい。